

令和元年度 第1回 熊本城文化財修復検討委員会 議事録要旨

日時：令和元年5月27日（月）10時00分～11時45分

会場：熊本市教育センター3階 第1会議室

出席者：山尾委員長、伊東委員、北野委員、千田委員、田中委員、西形委員、長谷川委員、平井委員、宮武委員、吉田委員、和田委員

熊本県文化課：豊田主幹、岩下指導主事

熊本市：中村副市長、井上総括

熊本城総合事務所：網田所長、津曲首席、中元副所長、濱田副所長、古賀技術主幹、城戸技術主幹、源主査、田代技術参事、能登原参事、馬渡技術参事、増田主任技師、河田主任技師、立石主任技師、柏木主任技師

熊本城調査研究センター：渡辺所長、濱田副所長、金田主査、林田主査、
下高文化財保護主任主事、亀島文化財保護主任主事、嘉村文化財保護主任主事、
木下文化財保護主事

文化振興課：林課長、小関副所長

大林組、中村石材、文化財建造物保存技術協会、文化財保存計画協会

1. 開会

2. 委嘱状交付 委員紹介

3. 副市長挨拶 事務局職員紹介

4. 運営要綱説明、委員長選任 山尾委員長を選任 委員長代理者に北原委員

5. 本年度の委員会の日程・審議事項説明

配布資料確認

6. 報告事項 (1) 大天守附櫓階段手摺について【資料6】

吉田委員	図4にある附櫓踊り場の柵は、階段と同じガラス製高欄になるのか。
事務局	附櫓の踊り場に関しては図4の通り従来柵に復旧する予定。ガラス製高欄は基礎が大きくなり、遺構へ影響する可能性がある。現状復旧が望ましいと考える。
宮武委員	大天守のガラス製高欄の設置目的は、万が一石垣が崩落した際の見学者の防御か。
事務局	見学者の転落防止にある。
宮武委員	図2の小天守入口スロープのガラスが途中までなのは大天守階段周りのガラス製高欄とのバランスか。
事務局	その通り。
宮武委員	小天守のスロープは、本来小天守の石垣から見学者を離すという目的であった。イメージ

	図の修正をしてほしい。一人歩きすることが不安。
北野委員	重要なのは見学者が本来の天守までの動線を十分理解できないこと。景観を阻害しないように何処かに案内板などで掲示してもらいたい。
事務局	検討する。
山尾委員長	詳細はまだ検討してもらおうとして、基本はこのガラス製高欄案で進めていくこと。

6. 報告事項（2）飯田丸五階櫓石垣解体調査成果【資料7】	
宮武委員	資料で色分けされていたグリ石内の石列のユニット（単位）について、築石の積み上げと大きくずれているのか。それとも踏襲しているのか。
事務局	踏襲しながら少しだけずれている。断面の観察でおおよそ踏襲していることが分かる。
宮武委員	駿府城や肥前名護屋城で出ている例は重なりあっている。福岡城の東大手門はズレを意識してやっているようだ。石列の西面側は隠れていて見えないのか。
事務局	隠れて見えない。グリ石を掘り下げた方が、石列が明確に見えてくる。
宮武委員	江戸時代の中間補修（正徳年間）とされている石垣の築石は新規材か転用材か。
事務局	新規材は少ないと考えている。明治時代の修理に近い。正方形の石を間知石状に加工して小さくしている。
宮武委員	背面に埋没していた慶長年間の古い石垣は、平面図で見ると飯田丸の反対側の石垣隅角と対になっている。南東側の石垣隅角の上部の勾配角度は同じか。
北野委員	同じではない。ずれている。
北野委員	資料7-1・2で前震の崩落は前倒れの形状であることは了解した。本震については、挙動が違うように思える。前震の時に上の方が前に飛んでいるならば、飯田丸五階櫓のコンクリート床盤は石垣の石材に干渉しなかったのか。断面図に天端付近の石材の控の長さとのコンクリート床盤の位置を入れてもらいたい。明治の石垣であって構造的に弱かったと思うが、地震当時の基礎構造も検討する必要がある。石垣構造だけではなく、建築構造と合わせた評価をしてもらいたい。現実的に床盤が影響していた可能性はあるのか。前震時の写真や動画か、石材と床盤の接点があるかどうかが見えてくると思う。
千田委員	説明資料への史料の援用は慎重に。資料の作成と配布を適切にしてほしい。
事務局	解体調査の速報として報告した。まだ検証すべき点が多いため配布は避けた。
山尾委員長	今後のワーキング等の議論になると思う。成果については検討段階で3月に改めて報告するということになる。資料についてはできる限り配布すること。
和田委員	飯田丸五階櫓の復旧について、大方針はどのようにしているのか。
事務局	人が近づく場所として定めるのか、建物を復元するとして人の中に入れるのか、また、石垣の補強ができるのか、など要点はいくつかあるので優先すべき点を含めて、今後検討していくことになる。どれか一つを優先するのではなく、それぞれの要素の優先すべき部分やバランスを見ながら考えていく。全体的な部分として「復旧基本計画」に基づいて震災前に戻すのでこれから公開活用していく部分ともかかわってくる。飯田丸五階櫓は城内でも先行する部分なので、議論をベースとして丁寧に検討を進めていく。
宮武委員	石垣に何かを足すという補強の議論の前に、伝統工法の技術が今後通じるかという議論がまだできていない。石列状の遺構や手詰めされた栗石を工学的に検証していくのはこれか

	ら。これらの技法が役立って石垣に崩れていない部分があるのだとしたら、これは継承すべき。建物を復旧する、建物の中に人を入れるといった命題を解決するために、まずその議論をすることが必要。
和田委員	イタリアの文化財には補強材を施したことで倒壊を免れた事例がある。トルコのモスクでは、再建補修が行われた点を明らかに補修したとわかるようにしている。元通りに戻して安全ならば一番いいが、世界的には丈夫にするために補強を行っている。飯田丸の石垣は高いので、何にもせずに人が自由に入れることは賛成できない。
千田委員	青森県の弘前城では、最終的に重要文化財の天守を戻す。石垣の修理方法もちろん重要であるが、石垣が崩れても建造物の倒壊を防ぐために様々な工法の提案をしてもらって最適な方法を検討し始めている。議論には時間がかかるということでスケジュールを検討して、委員会にあげてほしい。
山尾委員長	いずれにしても熊本市で方針が必要になる。方針には基礎から石垣、建物を含めて関係してくる。必要に応じて全体の委員会を開くことになる。その前提としてまだまだ検討が必要になる。
西形委員	石列の石のサイズは定量的に調べてほしい。

7. その他（事務連絡）

8. 閉会